

藝文やまなし



平成18年3月号

Vol.14

CONTENTS

- ◆会長随想2
- ◆県民文化祭への参加状況3
- ◆各受賞者の紹介4~5
- ◆部門の紹介6
- ◆総会・会員研修会のお知らせ7
- ◆いんふおめーしょん8



「デジタル時代の心の行方」

山梨県芸術文化協会会長 野 口 英 一



県内でも、地上波テレビのデジタル放送がいよいよ始まる。4月にNHK甲府放送局、7月には山梨放送、テレビ山梨で開始となる。しばらくは現行のアナログ放送も継続されるが、2011年7月24日には、テレビは完全にデジタル放送だけとなる。「2006年、地上波テレビのデジタル放送開始」。このことは間違いなく山梨の歴史に残る出来事と言える。

当事者にとって、その準備は大変な作業だ。アナログ放送は「波」で情報を届けるのだが、デジタル放送では0か1、つまりオンかオフかの信号で情報を届けることになる。伝送方法がまったく違うため、放送局はテレビカメラから局内の編集装置、送信装置、さらに中継装置まで、すべての機器をデジタル用に変えなければならない。山梨放送に限ったわけではないが、ローカル局がデジタル放送を開始するには、大変な労力と費用がかかる。視聴者にとっても、デジタル放送を受信できるテレビか装置を、遅くとも2011年7月24日までに用意しなくてはならず、他人事ではない。テレビが見られなくなるのである。

ほとんどの人にとってテレビは、今や生活の一部になっている。重要な生活インフラであるテレビが、「視聴者は買い換え」「送り手側は装置一新」を余儀なくされることの負担は大きい。が、一方で、デジタル化によってテレビはコンピューターと相性がよくなり、インターネットや携帯電話といった新しい情報機器とも融合しやすくなる。このメリットは極めて大きい。双方向も可能なデータ放送や携帯電話でのテレビ視聴が可能になるワンセグ放送は、その最たる成果といえる。

テレビも巻き込んだ「デジタル化」は、情報伝達の新しい分野を切り開き、個人の情報接触方法をガラリと変える。このことは、個々の生活パターンを変え、個人の思考、精神にも少なからず影響を与えるのではないかと考えている。芸術文化活動もそうだが、相手に何かを伝えるには、手段が必要になる。一義的には言葉や文字や音、体の動きや表情などだが、大勢にそれを伝えるには劇場や舞台、テレビ、ラジオ、新聞、本といった「装置」が必要になる。この「装置」が「デジタル化」によって大きく様変わりするのである。インターネット、携帯電話、データベースといった新しい「装置」も誕生した。伝達手段が変われば、表現方法も影響を受け、その送り手、受け手の思考、精神にも変化を及ぼすのではないかと思う。

しかし、忘れてならないのは、そうした時代にあつてこそ、かえって求められるのは人間味あふれた接触であり、深い精神性を感じさせる表現であり、懐が深く間口が広い連帯ではないか。この点は極めてアナログ的であるが、0、1の無機的、機械的なものが横行する時代に、人間的な湿った部分がより深まらないとバランスを欠いた不安定な社会になってしまうのではないかと憂えている。最近の常軌を逸した事件の多発は、既にその兆候ではないかと心配している。だからこそ、芸術文化活動をより活発に、より身近なものにして、精神の豊かさを培っていかなければならないと思う。県芸術文化協会がその支えとなっていければ、幸いである。

第5回やまなし県民文化祭への参加状況

本年度、第5回の開催となった県民文化祭。本協会はその中核となり主体的に参加しました。

総合舞台

2月5日（日）県民文化ホール小ホール 昼夜2回公演
創作舞台「なまよみの国から～酒折連歌・万葉紀行～」

一昨年「奈良田物語」、昨年「異聞・甲斐湖水伝説」に続き、本県を題材として一から創り上げた舞台には、舞台部会各部門がそれぞれの活動、表現の枠を超えて力を結集し、新たな芸術の可能性に挑戦した。

各部門参加者は、それぞれの活動と平行しての厳しい日程の中で困難を克服し、そのエネルギーを舞台の上に結実させ、来場者から惜しみない拍手を受けた。



総合展示

10月12日（水）から16日（日）県民情報プラザ地下展示会場

「美の競演・やまなしの作家たち」と題し、展示部会各部門が参加。指導的立場にある方々の作品を一堂に展示した。茶道部門、邦楽部門も参加し、優れた芸術文化の鑑賞と併せて茶席、邦楽演奏を行い、訪れた県民の心にゆとりが生まれる空間を演出した。

また、2月14日から19日まで行われた「合同展示」でも展示部会が中心となり運営を担った。



部門別フェスティバル

9月の音楽部門を皮切りに発表・舞台・展示各部会各部門が、それぞれ特色ある事業を実施した。

各受賞者の紹介

平成17年度に山梨県芸術文化協会の関係者で「県政功績」「山梨県文化賞」を受賞された方々を喜びの声とともにここに御紹介いたします。

県政功績

受賞にあたって

北村 誠

平成13年に文化功労者賞を受賞し、本年県政功績者表彰の栄に浴しましたことは、私を始め家族一同大変名誉と喜んでおります。

これも私を御指導御支援下さいました多くの皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

私は、子供の頃から芸能関係に強い関心を持ち、両親が又芸術文化関係に深い理解を持って居りましたので、自然に芸術文化活動への関わりを求めて参りましたが、この思いは今日までの私の人生の半分以上を満ち、名誉ある賞まで受賞出来ましたことは、本当に幸せだったと思って居ります。

県内外の芸術関係の多くの先生方との御交誼を始め、美術館、文化ホール、文学館等の建設、ミレーや芥川龍之介資料の購入、高文連、華道協会、ママさんコーラス連盟等の結成と多くの思い出を胸に、これからも命の続く限り微力ではありますが、芸術文化振興に尽力して行きたいと願っております。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞 奨励賞を受賞して 犬飼 和雄

甲斐国、その古代の歴史、文化に魅せられて40年。というのも、赤鳥元年鏡を見ることができたからだ。それをはじめて見た時、強い衝撃と刺激をうけた。気がついたら、甲斐の古代史、文化の勉強に没頭していた。

この銅鏡は三珠町の狐塚古墳から出土したもので、赤鳥というのは三国時代の呉の年号、その元年とは、西暦238年だった。こんな古代の中国の銅鏡が甲斐の国にあるとは。

やがて私は論文だけではなく、歌と語りと音でもそれを表現したいと思うようになった。さいわい、7人の甲斐人が協力してくれて、グループリョウじんができたが、どちらも道遠く、道なかば、しかしそれが私のライフワーク。そんな折、私たちの勉強を励ましていただくような賞を県からいただいた。今県の文化奨励賞に感謝の念しきりである。



山梨県文化賞 奨励賞

石と向かい合い

井上 公雄

この度は山梨県文化奨励賞を頂き、ありがとうございます。

石は永い歴史が生み出したモノであります。その存在と自身の関わりを彫ることで表現してきました。これまで多くの石と出会い、その中に形を見つけ出してきました。

この受賞は皆様方からの評価として感謝致します。またこの賞の重みを感じながらこれからの人達に少しでも役立つことが出来れば幸いです。

彫ることが私の天職でありそれを全うすることが私の宿命だと感じています。

これからも変ることなく石と向かい合い彫り続けていくことが私の生きてきた証しになると思うのです。



山梨県文化賞 奨励賞

奨励賞を受賞して

矢崎 佳子

この度因らずも、平成17年度山梨県文化賞奨励賞をいただくことが出来ました。写真の道に入って25年、自分の辿ってきた道を振り返り、身にあまるごほうびと、身の引き締まる思いがいたします。

今ではめずらしくなくなった女性のカメラ愛好家ですが、当時は女性がカメラ等を持って走り廻るのは、不思議の時代でした。ただ夢中で勉強し、一致団結して会を盛り上げ、毎年1回の会員展を開催してまいりました。

この様に継続出来たのは県写真連の会長様始め会員の皆様方と虹の会の皆様の、影になり、日なたになり御支援の賜と感謝申し上げます。

これからも力の続くかぎりお役に立ちたいと思っております。よろしく御指導御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。



山梨県文化賞 奨励賞

県文化賞奨励賞を受賞して 渡辺 昇（東雲）

この度は山梨県文化賞奨励賞をいただきその栄誉の大きさにひたすら感激し同時に責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

やまなし県民文化祭書道部門専門委員として十数年係わって参りましたが、山梨の書道振興への貢献という見地からみて、あまりにも微力ではなかったかと反省しております。

今後は表彰者の名に恥じない様、書道文化発展に寄与する所存です。



山梨県文化賞 奨励賞

県文化賞奨励賞を受賞して 堀口 昭

このたびは山梨県文化賞奨励賞をいただき、身にあまる光栄と深く感謝致しております。

思えば1940年頃よりマンドリン音楽に関わり、良き先輩、良き楽友に恵まれて、共に文化活動を行ってきたことが、このたびの受賞につながったのではないかと理解しています。多勢の先輩方が残して下さった尊い歴史を後世に伝えていく事が私共に課せられた責務と考え、今回の受賞を契機に微力ではありますが地域芸術文化の向上に、より一層努力して行く所存でございます。又、長年かげで支えてくれた妻に感謝しつつ二人揃って健康で授賞式に参列させて戴けた事を嬉しく思っております。終りに県当局関係者の皆様、県民文化祭音楽部門の皆様、それに山梨県マンドリン音楽連盟の楽友に心より御礼申し上げます。



山梨県文化賞 奨励賞

日本の伝統文化の発展を願って 牛山 清

昨年は年末に計らずも県文化賞奨励賞をいただき嬉しさと恥かしさを噛みしめながら健康で八十三才の坂を上っている。これも一重に皆さんの御協力と健康でいる有難さを感じている昨今である。この度、武田信玄公の遺徳を偲び武田神社境内に能楽堂が建立されることになった。信玄公は芸術に対しても造詣が深く、つつじが崎の館に能楽堂を設け山梨に古くから伝承される神楽を始めとする伝統芸能の発展にも努められたようである。本年、その能舞台で、観世流一門の方々の御奉仕により薪能が上演される。日本の伝統文化の発展につながることを願っている。



山梨県文化賞奨励賞を頂いて 山口 俊子

2005年、第五回県民文化祭、華道協会設立15周年と区切りの年に山梨県文化賞奨励賞という栄えある賞をいただきこの上もなき喜びを感じております。

授賞式当日、会場に伺いました際、入り口での県関係者の皆様の温かいお言葉に感激もひとしおでございました。控え室では、御一緒させていただく諸先生方と、共に喜びを分かち合える幸せを感じました。

山本知事より賞状を頂く時は、本当に身の引き締まる思いが致しました。省みれば趣味のつもりで入った生け花の道でしたが、教室を開くことが出来、若い方々との触れ合い、またカルチャースクールでは自分より年配の方々との交流等、緊張感の中にも楽しいことの方が多かったように思います。これを機に益々精進しつつお花を愛する人たちの育成にも努めて参る所存です。末筆ながら、ご指導ご支援賜りました華道協会会長及び諸先生方に心より感謝申し上げます。



山梨県文化賞奨励賞 心からの感謝と共に 奥山 幾代子

この度は、栄誉ある県文化賞奨励賞をいただき、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。又フラワーデザインを真の芸術文化として社会的にもお認めいただきました事、ご苦勞いただきました諸先生方と共に喜びでございます。

花が好きでフラワーデザインという新しい花の分野に出会い、その世界が欧州の歴史と共に発展し奥深い事を知り、自分も勉強を重ねながら教え始めました。そして35年ヨーロッパ研修30余回、伝統に時代性を加え、花の造形として進歩を続ける欧州デザインに日本人の感性を入れ、花の心を創り手が人の心に伝えられる作品を今後も山梨を基として全国に発信しその普及と発展に微力ながら尽くして参ります。一心豊かに、腕は確かに一十八才でお教えいただきました事を思いつつ、支えていただきました多くの方々に感謝と共に御礼申し上げます。



部門の紹介

朗読部門

心から心へ ひびけ

とどけ こえと ことば

朗読部門長 河野 司

朗読部門は現在、金雀花の会（甲府市＝浅原和子代表）、すずらん（増穂町＝小川幸子代表）、溝口朗読サークル（甲斐市＝溝口直彦代表）、やまびこ会（甲州市＝雨宮美美子代表）、なみの会（甲府市・韮崎市・甲州市＝河野司代表）、それに坂本英子個人会員（甲府市）で成り立っています。

金雀花の会は以前甲府市立図書館視聴覚ホールで何回か朗読発表会を行なっていましたが、近年は浅原代表の身辺が多忙となり、現在活動休止状態です。

すずらんは毎月1回のレッスンと並行して町内外で朗読ボランティアや朗読会を積極的に展開し、また最近3ヶ月に1回のペースで有志が「ますほカフェ」と銘打って意欲的な朗読会を行なっています。

溝口朗読サークルは、おそらく県内で最も早く自主的な朗読サークル活動を始めて、毎年の発表会も20回を超えています。歴史が長いだけに、溝口代表の元で育ち、巣立っていった方々が、県内外で朗読活動を展開しています。

やまびこ会は旧塩山市で朗読ボランティア活動を続けて来、現在は毎月の学習会、ボランティア活動の他に甲州市内外で活発に朗読活動を展開しています。

坂本英子個人会員は劇団やまなみの女優として舞台や朗読で活躍するほか、身延町の朗読グループの指導に当たり、最近なみの会にも再入会して着々と朗読活動の場を広げています。

朗読・表現なみの会は3市6支部でそれぞれ学習を重ねながら、地域の文化祭や独自の発表会、朗読ボランティア活動を展開しています。甲府の4支部が協力して甲府市立図書館視聴覚ホールで毎月第四日曜日に「さざなみ朗読館」と銘打ってボランティア朗読会を行なっています。また河野の他、渡邊昌恵などが各地で朗読講習会の講師をつとめ、県内の朗読活動発展に寄与しています。

芸文協会員の各グループ・個人は上記の他に、やまなし県民文化祭実行委員会の朗読部門専門委員会に委員を派遣し、朗読発表会や総合舞台に力をあわせて対応しています。

県立文学館主催「親子ほのほの朗読会」にも積極的に対応しています。また韮崎市立図書館が毎月行なっている「朗読のつどい」にも隔月で各団体が出演し交流を深めています。

県内には朗読グループが100を軽く超えるほどあります。機会あるごとに芸文協への入会をお勧めしていますが、「とてもとても私どもの朗読は『芸術』なんておこがましい」と、皆さんなかなか奥ゆかしくて、加入団体は伸び悩み気味です。

でも、県民文化祭朗読部門専門委員会には、ききみみずきんおはなしの会、甲府すずの会、すずの会、橡の会、みすゞ会などの朗読グループが、それぞれ忙しい活動の中を委員を送り出して、芸文協会員と肩を並べて、時にはリードして県民文化祭朗読発表会成功のために一所懸命に尽力してくれています。

近い将来きっと芸文協朗読部門もいっそう多士済々、より大きな朗読活動の波となることでしょう。ご期待ください。



芸文文化講習会「春をよぶ」朗読♪笛♪チェンバロ♪のつどい」

総会及び会員研修会のお知らせ

日時 4月22日（土）
午後1時30分

場所 山梨県総合教育センター
（県立博物館隣り）
別館 第3研修室 *配置図参照
笛吹市御坂町成田1456
Tel 055-262-5571

総会 ・平成17年度
事業及び決算について
・平成18年度
事業及び予算について



会員研修会

今回は、山梨県立博物館の平川南館長を招いての講演会を開催します。

演題は「漆（うるし）と日本文化」です。

講演会終了後、県立博物館の見学も併せて行います。

多くの会員の皆さまのご来場をお待ちしています。

*特別展の見学は有料になります。



【講師：平川南先生 プロフィール】

平川南（ひらかわみなみ）

昭和18年甲府市生まれ。

山梨大学学芸学部卒業。

宮城県多賀城跡調査研究所技師・研究員を経て、国立歴史民族博物館助教授・教授。

平成2年東京大学で学位（文学博士）取得。

平成13年国立歴史民族博物館副館長（～平成16年）。

現在、人間文化研究機構理事・国立歴史民族博物館館長。

平成17年8月から山梨県立博物館館長。



主要著書に『多賀城碑—その謎を解く』（雄山閣出版）、『漆紙文書の研究』（吉川弘文館）、『古代日本の文字世界』（大修館書店）、『よみがえる古代文書—漆に封じ込められた日本社会—』（岩波書店）、『墨書土器の研究』（吉川弘文館）、『古代地方木簡の研究』（吉川弘文館）、『文字と古代日本1 支配と文字』（吉川弘文館）などがある。

◇問い合わせ先 山梨県芸術文化協会事務局（県生涯学習文化課内）
Tel 055-223-1797 Fax 055-223-1322



いんふおめーしょん 会員活動紹介

音 楽

山梨交響楽団第33回定期演奏会

日 時 6月10日(土)
午後5時半開場/午後6時半開演

場 所 県民文化ホール 大ホール

指 揮 北原幸男

プログラム

マーラー作曲/交響曲第1番 二長調《巨人》

モーツァルト作曲/クラリネット協奏曲

イ長調 K.622

クラリネット独奏:カールマン・ベルケシュ

ロビーコンサート

当日午後5時45分より、大ホール1階ロビーにて、梨響有志によるロビーコンサートを行います。

洋 舞

足立会バレエスタジオ バレエコンサート

日 時 6月3日(土)
午後5時半開場/午後6時開演

場 所 県民文化ホール 小ホール

プログラム

(1) 足立四津子 「ダンス・ダンシング」

(2) 深川 秀夫 「スラヴィック・ダンサー」

(3) 大塚 礼子 「クラシカル・シンフォニー」

入 場 無料

問い合わせ 甲府市塩部2-2-19
足立会バレエスタジオ
TEL 055-252-6296

華 道

第16回 山梨県華道協会華道展

主 催 山梨県華道協会

会 期 4月7日(金)~12日(水) ※三次展

会 場 甲府岡島百貨店 7階特設会場

開幕式 4月7日(金)午前9時50分 華道展会場

平成18年度 山梨県華道協会定例総会

日 時 平成18年4月9日(日)

午前9時30分受付・10時開会

会 場 岡島ローヤル会館 8階

第4回 日本いけばな芸術 東海・山静展

会 期 5月31日(水)~6月5日(月)

前期展 5月31日(水)~6月2日(金)

後期展 6月3日(土)~6月5日(月)

会 場 静岡市松坂屋 7階特設会場

写 真

第5回山梨県写真団体連絡協議会合同展

日 時 6月20日(火)~25日(日)
午前9時半~午後5時

会 場 山梨県立美術館県民ギャラリーA

内 容 県下30の加盟写真クラブから120点の自由作品を展示。

入 場 無料

民謡民舞部門

会 場 県民文化ホール 小ホール

第31回山梨県民踊民舞連盟舞踊発表大会

日 時 4月2日(日) 午前10時~

第11回山梨県舞踊研究会舞踊発表大会

日 時 4月29日(土) 午前10時半~

第26回甲府志保己会舞踊発表会

日 時 5月3日(水) 午後1時~

■表紙題字 金井 昭堂(芸術文化協会参与)

芸文やまなし表紙募集

芸文やまなしVol.15の表紙を募集しています。ふるってご応募ください。

■事務局 山梨県企画部県民室 生涯学習文化課 芸術文化担当

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1797 FAX 055-223-1322